



群馬大学共同教育学部ニュース



けやき通信

Cooperative Faculty of Education, Gunma University News. "Keyaki"

第11号 (2021年2月)

共同教育学部がスタートしました

群馬大学共同教育学部長 齋藤 周

2020年4月、群馬大学と宇都宮大学との連携による共同教育学部がスタートしました。全く予想もしなかった形でのスタートでした。

昨年の「けやき通信」でもお伝えしたように、この学部は両大学の教育学部がそれぞれ共同教育学部に名称変更した上で、共同の力で学生教育を行うものです。両学部の多才な教員の力を結集することで、より充実したカリキュラムを構築しました。

共同教育学部では、各学生が履修する授業の4割ほどが両大学合同の授業です。合同授業といっても、80km離れた両大学の学生をひとつの教室に集めるならば学生に大きな負担をかけます。そこで、両大学の教室をオンラインで結ぶことにしました。たとえば、私が群大の教室で群大生を前に授業を行います。その様子は宇大の教室のモニターに映し出されます。私が両大学の学生に問いを投げかけ、宇大生からも答えてもらうことができます。宇大生が私に質問することもできます。

というような授業が、4月から始まるはずでした。

現実には、新年度を前にして新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、各大学は対応を迫られました。群大は、卒業式と入学式の中止、授業開始日の2週間繰り下げ、全授業のオンライン実施（Zoomを使用）を決めました。オンラインといっても、群大と宇大の教室を結ぶものではなく、大学が提供する授業を各学生が自宅からパソコンでアクセスして受講します。学生はもちろん、大学教員も経験したことのない方法です。授業開始日の繰り下げは、オンライン授業の準備（学生の通信環境の確認、教員へのZoom使用方法研修など）に必要でした。なお、宇大は原則としてZoomを使わないので、合同授業はライブ配信ではなくオンデマンド方式となりました。

当時、小中学校等は休校中でしたが、大学の場合は多

くの学生がパソコンを持っています。そこで、群大は、通信環境が整わない学生への支援（ルーターの貸し出しなど）を行いつつ、オンライン授業を開始しました。

その後、小中学校等が教室での授業を再開しても、群大を含む各大学はオンライン授業を継続しています。大学生の行動パターンには、感染のリスクが伴うからです。まず、大学の授業は大人数のことが多いほか、授業ごとにメンバーも教室も変わります。各学生は、1日にかなり多くの人に接することになります。また、通学に電車・バスを使う学生も大勢います。授業後にも、アルバイトや友だちとの外食をする学生は多いでしょう。

ただ、実験や実技の授業は、オンラインでは困難です。理科、技術、音楽、美術、家政、保健体育の各専攻では、十分に感染対策をとった上で、実験・実技の授業を7月から再開しました。また、入学したばかりで人間関係を築いていく段階にある1年生には、大学に来て受講できる機会を週に1度設定しました。

教育実習は、実習校の協力を得て、すべて実施できました。一方、介護等体験は、要介護者は感染について特に注意が必要な方たちなので、文部科学省が示した代替措置（大学での授業）に全面的に切り替えました。

オンライン授業では、各担当者が努力して、授業の質と双方向性を確保しました。宇大との合同授業での意見交換もできました。その結果、学生アンケートでは、本年度の授業に肯定的な回答が多数寄せられました。

感染が終息すれば、計画していた形での合同授業を開始できます。合同合宿研修の計画もあります。それらの様子については、次号以降までお待ちください。

*

本年度末で私の学部長の任期は終わります。これまで、どうもありがとうございました。今後とも本学部へのご支援・ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める 2020」を開催

専門職学位課程長 山口 陽弘

11月15日(日)14時より、公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める 2020: 子どもたちが主体的に学ぶ教室をめざして—UDL ガイドラインを活用した授業づくり—」(主催: 国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会、共催: 前橋市教育委員会)が、教育関係者八十名以上の参加のもと zoom によるオンラインで開催されました。

教職大学院 11 期生の柳田景子先生(長野原中央小学校)から、大学院での課題研究とその中心となった実践について報告がありました。柳田先生は、昨年度の教職大学院の修了生で、成績優秀者としても表彰された方です。実践は勤務校の長野原中央小五年生(12名)を対象とした、教職大学院 M2 のほぼ一年間の算数の教育実践研究を中心に紹介されました。柳田先生は、「主体的に学習を進められる児童」を育てるため、自分にふさわしい学習方法を模索できるための指導法を模索した結果、多様な学び方を保障できる学習デザインを提供できる UDL(Universal Design for Learning)に着目されました。UDL は一人一人のニーズにあった方法を、児童自身が選択する、という学び方を目指す概念的なフレームワークであり、「すべての子どもを主体的に学ぶことができる学習者に育てる」ことを目指しています。

その際の教師の手立ては、UDL ガイドラインによるアセスメント→予想されるバリアの把握→オプション提供→足場的支援→振り返りの設定というサイクルを通して、最初のアセスメントに戻っていきます。これはあくまで主体的に学習を進められる学習者を育てるのが目的です。実践は四月から十一月の実践内容を、UDL に対する児童の様子に焦点を当てて、とまどい期→駆け出し期→慣れ親しむ期→ヤル気が出てきた期→交流期→上達期に分けて分析されました。各期における算数のいくつかの単元での指導法と、抽出児童のノートの記述内容の変容や 12 名のアンケート調査などの分析結果から、その成果が報告されました。その結果、確かに児童が主体的に学習に向かう姿が見られたということが確認されるとともに、課題としても最初のアセスメントの難しさなどにも言及されました。

本学教職リーダーコース・大島みずき准教授は、二年間の指導教員の立場から柳田実践に対し、あくまで児童が主体的に活躍することが目的の実践であり、柳田先生にとって UDL は授業実践のためのフレームワークであること、さらに UDL 実践のためには、最初のアセスメ

ントが大事であること、それは最後の目標設定が明確化されていないと問題が生じるといった指摘がありました。

群馬県教育委員会義務教育課教科指導係・浦野正指導主事からは、柳田実践に UDL の実践活動として三つの含意があるという指摘を受けました。第一に学びのためのきっかけづくりという点です。学習支援の多様性の確保を柳田先生が十分されたことがこの点で多いに役立ったということです。第二に「主体的、対話的で深い学び」を実現させるため、その実践の中で発表や説明する力に焦点を当てた点です。第三に、児童の個別最適な学びを促すため、様々なツール、たとえば ICT 機器の導入をする際に、UDL ガイドラインがその活用のために役立つということです。以上三点から柳田実践への高い評価がなされました。

以上の報告をうけ、zoom でのオンライン開催にもかかわらず、フロアからも多くの質疑が交わされ、本年度のシンポジウムも充実したものになったと思います。関係者各位に深く感謝いたします。

(文責: 司会担当・山口陽弘)



実践報告をされた柳田景子先生(教職大学院第 11 期生)

シンポジウム「一丸となって取り組む道徳科」開催

附属教育実践センター 久保信行、上原永次、日置英彰

本年度、学校教育総合臨床センターは、教育実践センターへと改組しました。教育実践力を身につけた教師の育成と、学び続ける教師を支援する中核施設として更なる発展を目指しています。その記念イベントとして、令和3年1月9日（土）、「一丸となって取り組む道徳科」を開催し、約220名の方が参加しました。コロナ禍のため、主会場をzoomでつなぐ方法で実施しました。

まず始めに、教育実践センター久保信行が基調提案を行い、その提案を受け、パネルディスカッションを行いました。パネラーとして文部科学省教科調査官 浅見哲也先生、太田北中学校校長 栗原信義先生、高崎市立北小学校教頭 天田由美子先生、邑楽町立邑楽中学校教諭 和田圭輔先生、前橋市立富士見中学校 木村貴博先生の方々に登壇いただきました。このディスカッションを

通して、学校のそれぞれの役割を踏まえて道徳充実に向けてできることを行っていくことが大切であることの認識を深めることができました。最後には、文部科学省教科調査官 浅見哲也先生による講演があり、教科化された道徳科のあるべき姿の理解を深めることができました。参加者からは「チームとして、組織的に取り組むことが大切だ」などたくさんのご意見をいただきました。

当センターでは、今回の改組を機に様々なプロジェクトをスタートさせています。卒業後の数年間、教員としての順調なスタートを支援するためのプログラム「はばたきプロジェクト」も始まります。また、フェイスブックを活用した道徳ブログや、メールマガジンを通して様々な情報を発信していますので是非ご利用をお願いいたします。



パネルディスカッション



浅見哲也先生
(文部科学省教科調査官)

令和3年度採用 群馬県教員採用試験結果

学生支援委員長 三國 正樹

令和3年度採用群馬県教員採用試験の本学合格者は、現役102名、既卒者37名、合計139名という結果でした。全体合格者に対する占有率は、小中特別支援学校が35.4%、高等学校が7.8%、全体では32.2%でした(表1)。表2は平成29年から令和3年度までの志願者数(現役生)に対する一次・二次試験合格者数と合格率を示すものです。二次試験合格者が11名減、合格率が8.8%下がりました。昨年度は現役生で113名、既卒者で33名の合格者であったことを考えると、現役生・既卒者どちらの合格者も今年度は低下しており、やや残念な結果と

なっております。

今年度はコロナウイルス対策で採用試験指導もオンラインで行われ、対面での指導は「二次試験対策講座」の1日以外はほとんどできなかったことを考慮し、来年度に向けての対策は慎重かつ計画的に考えてゆく必要があります。今後も教員採用試験対策のみならず就職関係の特別講演会、模擬試験など学生支援活動に取り組んでまいります。学生支援委員会の事業にご理解とご協力をお願い申し上げます。

表1：群馬県公立学校教員採用試験の校種別結果と占有率(既卒者含む)

令和3年度採用	全体合格者数	本学合格者数			占有率	
		現役生	既卒者	合計	現役生	全体
小学校	130	8	8	16	6.2%	12.3%
中学校	200	81	17	98	40.5%	49.0%
特別支援学校	51	12	9	21	23.5%	41.2%
小計	381	101	34	135	26.5%	35.4%
高等学校	51	1	3	4	2.0%	7.8%
合計	432	102	37	139	23.6%	32.2%

表2：群馬県公立学校教員採用試験志願者数(現役生)と合格率

採用年度	志願者数	一次試験合格者数 (志願者に対する合格率)	二次試験合格者数 (志願者に対する合格率)
令和3年度	158	138 (87.3%)	102 (64.6%)
令和2年度	154	136 (88.3%)	113 (73.4%)
平成31年度	187	146 (78.1%)	126 (67.4%)
平成30年度	179	149 (83.2%)	110 (61.5%)
平成29年度	170	120 (70.6%)	106 (62.4%)

距離を超えて共同教育学部の授業を実現させる遠隔授業システム

カリキュラム委員会 佐野 史

2020年度から、群馬大学教育学部は宇都宮大学教育学部と共に全国初の「共同教育学部」を設置し、連携して群馬県・栃木県で活躍する教員の養成に取り組んでいます。共同教育学部の新しいカリキュラムでは、教職科目や各教科の専門科目など「齊一科目」と呼んでいる科目群の授業において、その内容を専門的に研究しているどちらかの大学の教員が担当する授業を両大学の学生が同時に受講する仕組みになっています。群馬大学-宇都宮大学間、約100kmの距離を超えてこの仕組みを可能にするのが、昨年度から新たに各教室への整備を進めている遠隔授業システムです。

遠隔授業システムは、テレビ会議システムや教室の前後に設けたカメラ、音響システムなどで構成されています。このシステムでは、群馬大学で授業を行っている教員の映像や音声をテレビ会議システム経由で宇都宮大学の教室に送ることができます。また、授業を受けている学生の様子は教室の前方に設けたカメラで撮影しているので、宇都宮大学の教員には群馬大学の学生の様子を確認しながら授業を行っていただくことができます。その

ため、授業の際には教員は片方の大学にしかいないわけですが、教員がいない方の教室でも、ほぼリアルタイムかつ同じ質の授業を受けることができます（図1、2）。もちろん、同じシステムが宇都宮大学にも設置されています。

今年度はコロナウイルスへの感染拡大防止のため、両大学ともに教室での対面授業は極めて限定的にしか行うことができず、残念ながらせっかく導入したシステムをフルに活用することができませんでした。そんな中、群馬大学では教室の遠隔授業システムをウェブ会議システムと連動させて、対面で受講する学生とオンラインで受講する学生が混在するハイブリッド型の授業も試みられ、このシステムの活用に新たな可能性も見えてきました。今年度の整備が完了すると遠隔授業を行える教室が12室に増えるとともに、アクティブラーニング教室や実験・実習室の遠隔化も実現するため、より多様な形態の遠隔授業が可能になる予定です。魅力ある遠隔授業が行えるように今後も整備を図りたいと考えています。

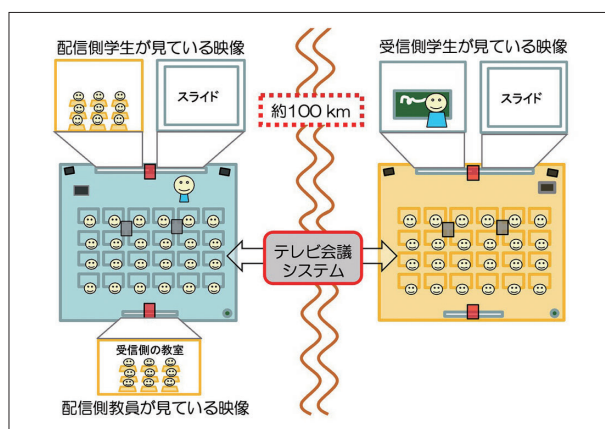


図1 遠隔授業システム模式図



図2 受信側の学生から見た配信側教員の様子
出典：群馬大学バーチャルキャンパスツアー



群馬大学共同教育学部ニュース「けやき通信」 第11号（2021年2月）

発行：群馬大学共同教育学部

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2 / TEL：(027) 220-7204 / URL：<https://www.edu.gunma-u.ac.jp/>

・本紙に関するご意見ご感想等ございましたらお寄せください。